

日建学院が創造する建設人材の 育成・継続教育について

株式会社建築資料研究社／日建学院 学院事業部

1. 「大工さんを建築士に」 人材育成に挑む

日建学院の母体である株式会社建築資料研究社は、2019年に創業50年を迎えました。建築専門書の出版社として誕生した当時から建設業界への貢献を目指しており、1976年には、その核となる人材育成という志を抱いて、日本建設実務学院（現・日建学院）を開設。2021年度には、建築士講座顧客満足度No.1に選ばれるなど、その想いは現在まで受け継がれています（写真－1、2）。

人材育成への情熱は、創業者である先代の社長の経験から生まれました。自身が1級建築士資格試験にチャレンジしたとき、働きながら独学で合格を目指すことの大変さ、合格することの難しさを痛感。同じように働きながら資格を目指す人の手助けをしたいと考えたのです。さらに、有資格者という人材の育成は、いつの時代にも健全な社会の存続のために不可欠だという考えがありました。

今のように資格試験対策講座や教材、情報などが豊富にない時代に、まずは車での移動中に勉強ができるカセットテープの建築士養成講座をつくり販売を始めました。その後、よりきめ細やかに丁寧にサポートできる通学講座を開設。それが現在の日建学院の原点となりました（写真－3）。



写真－1 創業当初出版の「設計原図集」



写真－2 現在の出版雑誌



写真－3 株式会社建築資料研究社・本社

当時のキャッチフレーズは「大工さんに1級建築士資格を取ってもらおう」です。講義はもちろん講師が教壇に立って行う一般的な対面講義でした。通学は日曜日なのですが、仕事が入り欠席ということもあります。そこで補講用にビデオを提供。分かりやすいと評判になり、次第に対面講義と並行して映像講義も行うようになっていきます。さらに、映像講義を受けた受講生の合格率が、対面講義の受講生よりも高いという結果を受けて、映像講義のレベルアップに取り組んでいくことになります。

こうした映像教育のパイオニアとしての経験と実績は、すべて「大工さんを建築士に」という建設業界の人材育成への志から始まったのです。

2. 多方面から人材育成を支援

日建学院のメイン事業は、創業から現在に至るまで一貫して資格取得サポートです。建築士、施工管理技士をはじめとする、建設業界に関わる主要な資格合格のための講座は、現在30種を超えます。教育訓練給付金や、人材開発支援助成金を利用できる講座も開設。資格取得に向けて努力するやる気のある人々を、ひとりでも多く応援することを目指し続けています。

資格は取得して終わりではなく、そこをスタートラインとして社会での活躍の場を広げるものです。努力して資格を取得した合格者の方々の可能性がより拓けるよう、そして常に勉強を続け知識や技術が向上できるよう、当社では各種講座だけでなく企業・学校より依頼を受け、各種資格取得ガイダンス・セミ

ナー、国土交通省などが有資格者に義務付ける法定講習（実務講習、監理技術者講習等）も認可を受け実施しています（表-1）。

中でも、未来を担う学生や若者への教育支援には力を入れています。資格取得を目指す方を応援する以前の段階として、資格の意義、建設業界の可能性などを明示し、建設業界を選んでもらう。資格を取得して建設業界で活躍することの魅力を訴求する。そのための活動にも注力しています。

当社には、無料でご利用いただける学生向け会員制度NSS（ニッケン・サポート・システム）があり、Webコンテンツの無料視聴や建築専門書（当社刊）の学割購入、資格試験受験サポートなどを展開しています。

学生の方々に向けては、情報発信Webメディア『LUCHTA（ルフタ）』（写真-4）の配信により、学生にとって有益な情報提供やコミュニケーションの場づくりを実施。学生の卒業設計展として最大

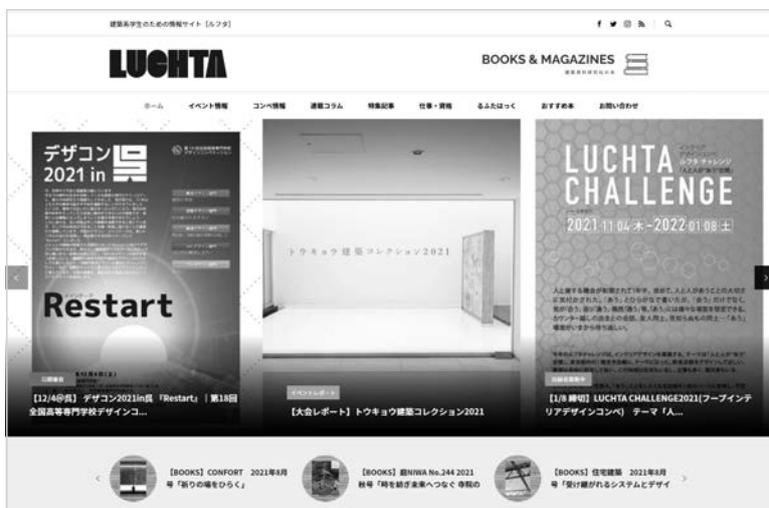


写真-4 LUCHTA（ルフタ）ホームページ



写真-5 せんだいデザインリーグ



写真-6 トウキョウ建築コレクション



↑会場の動画がご覧になれます

表-1 日建学院の主な講座一覧

■主な資格講座一覧

1級建築士 2級建築士
 建築設備士 構造設計1級建築士 インテリアコーディネーター
 宅地建物取引士 賃貸不動産経営管理士 管理業務主任者 土地家屋調査士 測量士補
 1級建築施工管理技士 1級土木施工管理技士 1級管工事施工管理技士 1級造園施工管理技士
 2級建築施工管理技士 2級土木施工管理技士 2級管工事施工管理技士 2級造園施工管理技士
 1級舗装施工管理技術者 給水装置工事主任技術者 1・2級エクステリアプランナー 等

■主な給付金講座一覧

1級建築士学科本科コース 1級建築士設計製図本科コース 1級建築士設計製図パーフェクト本科コース
 2級建築士学科本科コース 2級建築士設計製図本科コース 2級建築士設計製図パーフェクト本科コース
 宅地建物取引士本科コース 宅地建物取引士短期集中コース 宅地建物取引士重点 Web コース 宅建通信合格コース
 HIPS インテリアコーディネーター1次本科 Web コース 土地家屋調査士本科コース
 1級建築施工管理技士一次コース 1級建築施工管理技士二次本科速修コース 2級建築施工管理技士一次・二次コース
 1級土木施工管理技士一次コース 1級土木施工管理技士一次 Web コース 1級土木施工管理技士二次本科 Web コース
 2級土木施工管理技士一次・二次コース 1級管工事施工管理技士一次コース 等

■主な助成金利用講座一覧

1級建築施工管理技士一次コース 1級建築施工管理技士二次本科速修コース 2級建築施工管理技士一次・二次コース
 1級土木施工管理技士一次コース 1級土木施工管理技士一次 Web コース 1級土木施工管理技士二次本科 Web コース
 2級土木施工管理技士一次・二次コース 1級管工事施工管理技士一次コース

■主な法定講座一覧

建築士定期講習 宅建登録講習 宅建実務講習 監理技術者講習 第一種電気工事士定期講習 評価員講習

規模を誇る「せんだいデザインリーグ」(写真-5)や修士学生を対象とした「トウキョウ建築コレクション」(写真-6)、高専の全国大会「デザコン」等、建築系学生によるデザインコンペや卒業制作展を積極的にサポートし、全国のイベントへの協賛や各種作品集の出版など、総合的な取り組みを行っています。

これらはあくまで間接的な支援ではありますが、業界の未来を担う人材の手助けになればという思いから今後も活動を続けていきます。

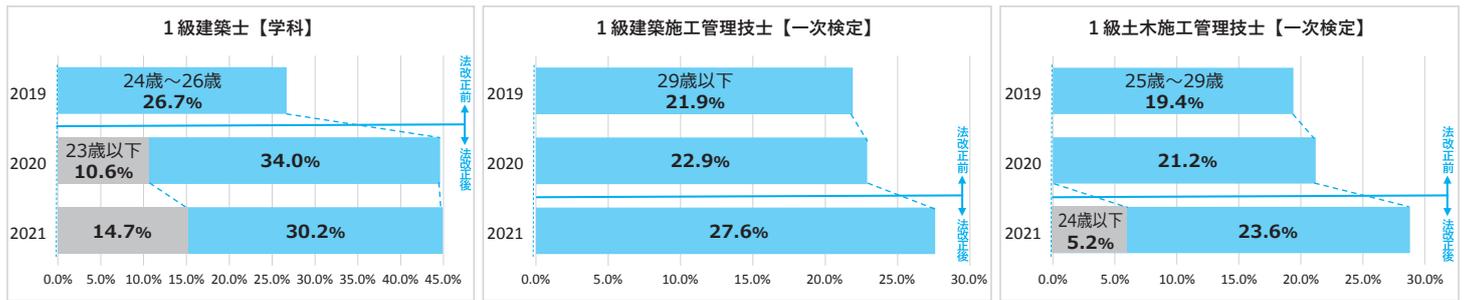
3. ニーズに迅速に応えるチャレンジ

日建学院/建築資料研究社は、約半世紀にわたる企業活動の中で、建設業界と、業界を通じた社会の動向を見据えて、常に変化する社会情勢に柔

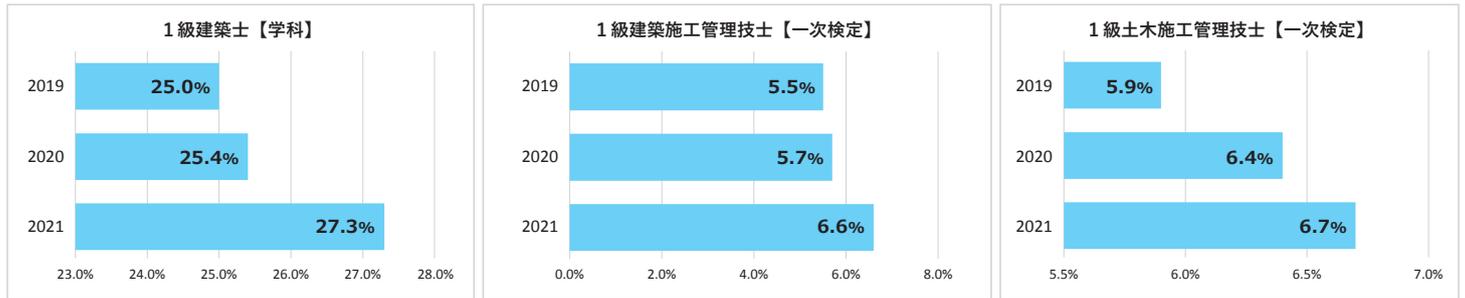
軟に対応し、どんな状況にあっても意欲をもって頑張る人々をサポートすることに全力を傾けてきました。

昨今のコロナ禍においては、受講生全員に向けて、自宅でオンライン講座を受講できる権限を無償で付与。制限の緩和時、緊急事態宣言の解除後も、個別ブース・教室の開放や通学講座の再開と並行して、自宅での学習を希望する場合にはそれを継続できるようにしています。これは受講生の心理的負担やそれぞれの状況に合わせて、受講生自身がベストな状態で学習を続けられることを最優先した結果です。

近年、建設業界の大きなトピックである法改正を受けて、若者の合格者割合が増加。また、女性も増加傾向にあります(図-1, 2)。当社でも、これまで以上に学生や若者に向けての働きかけに力を入れています。



図－1 若年層合格者割合の推移 (出典：国土交通省 資料より)



図－2 女性合格者割合の推移 (出典：国土交通省 資料より)

例えば建築士法改正により、在学中から受験資格を得る高校生、専門学校生、大学生のために、学校と連携したサポートを展開。教諭に向けた資格試験指導の講習会を開催したり、学生が自分の通学する学校で資格取得のための講座を受講できるよう、それぞれの教育機関に合わせてカスタマイズした講座を提供したり、次世代への事業承継に向けて、早期からの資格取得を可能にした建築士法改正に対し、その効果がより高まるよう働きかけていきます。

4. 人材育成・業界貢献の基盤は映像講義

コロナ禍においても、迅速にオンライン講座を提供できたこと。法改正時にも、それぞれに合わせた講座やサポートを提供できること。それを支えるのが、当社の映像講義です。

固定カメラで単に講義を撮影して映像にするのではなく、映像のためのよりよい講義を研究・模索し、受講生の意見や資格試験の結果を踏まえて進化させてきたのが日建学院の映像講義です。

自社スタジオや撮影・編集機器は、実際にテレ

ビ局の番組制作にも使用されるハイスペックなものです。講義内容の構成は、資格試験を熟知したスタッフが実際の講義の数倍時間をかけて吟味し決定します(写真－7, 8)。

行政・実務や教育・研究の経験が豊富な選りすぐりの講師たちが、それぞれ最も得意な分野の講義を担当して、映像を視聴する受講生のための講義を練り広げ、リアルな現場の映像や、講義内容をより分かりやすく視覚化する図表、イラストなどを豊富にとりいれて、分かりやすく記憶に残りやすい映像講義へと編集していきます。

自社スタジオなので、法改正等、講義内容に改善を加えたいときなども迅速な対応が可能。当社



写真－7 講義内容会議風景

のように全国展開をする上では、いつでもどこでも講師の較差なく、同じハイレベルな講義を安定して届けられることが重要です。それが映像講義では可能になるのです。

映像講義と合わせて学習効果をより上げるための教材についても、各分野の専門家に執筆、監修を依頼し、オリジナルで最高レベルのものを毎年刷新しています（写真-9）。

学習効果が立証された映像講義を、番組制作部門で経験を積んだ最高のスタッフが充実した設備で制作し、それに合わせた最も適切な教材とともに提供。加えて、スマートフォンでのサブ講義や、パソコンでの家庭学習にも展開し、いつでもどこでも学習できる環境を提供する。さらに受講生一人一人を担当アドバイザーが合格するまでサポートする。この一連の流れが、日建学院の合格率を支え、人材育成の根幹となっています。

5. 社会がより輝くための展望

資格試験は大変厳しい道のりです。そして、その先に待つ合格はゴールではなく、スタートラインです。有資格者となり建設業界にはばたいていく。その人材が、さらに優秀な人材となり業界を安定させる、または業界のレベルを上げていくことこそが人材教育の真の目的です。

当社の今後の展望を考えると、その基本が常にあります。資格取得という基盤を日々ブラッシュアップさせながら、「人こそ力」の理念のもと、さらなる社会貢献に向けて、これまでの枠にとどまらない展開も計画しています。

例えば、企業向けの実務講座では、すでに開講中の構造設計者向けに加えて、施工管理など他分野への拡大。さらには社員教育に人や時間などのリソースが割けない中小企業や工務店に向けて、



写真-8 自社スタジオ

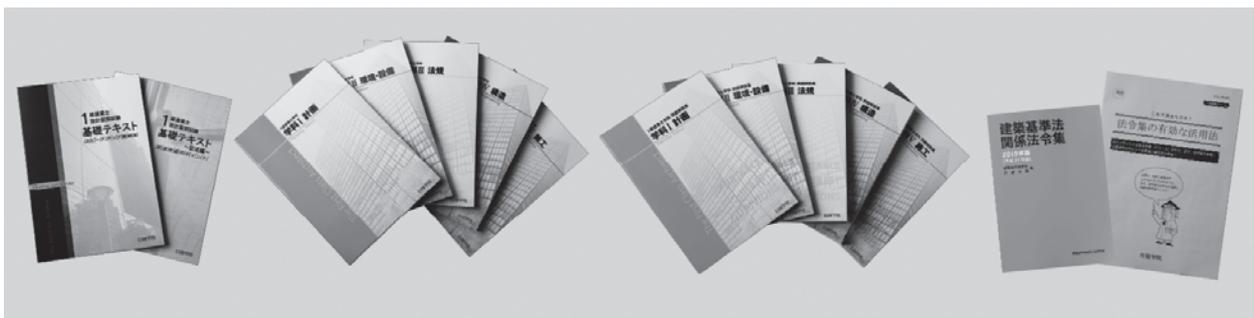


写真-9 1級建築士テキスト

ビジネスマナーから教育するサービスも実施（写真－10）。また「業界研究セミナー」を開催（写真－11）して、人材を求める企業と建設業界を目指す学生をつなぐ橋渡しをしています。

これまで培ってきた経験と実績を踏まえ、建設業界の人材に関する困りごと等、様々なニーズを

日建学院とグループ企業が汲み上げ、解決していくことで、建設業を志望する人が増え、建設業界からの人材流出を防ぎ、人材のスキルアップと業界のレベルアップが図れる。そのようなプラスのスパイラルを、建設業界に巻き起こせるよう、これからも尽力していきます。



写真－10 実務講座イメージ



↑会場の動画がご覧になります

写真－11 建築系学生のための業界研究セミナー